

2022 年度 外部評価委員会 実施報告書

1. 外部評価委員会を終えて

「創価大学自己点検・評価実施規程」第 12 条第 3 項に基づき、本学の自己点検・評価活動の客観性、公平性を担保するため、外部評価を実施しました。

全学的な取り組みを対象としたこの外部評価を本学は 2020 年度より毎年開催しております。2022 年度外部評価は、前年度にあたる 2021 年度の本学の取り組みを、学長ヴィジョンに沿った形式で取りまとめ、外部評価委員から評価いただく方針としました。具体的には、教育・研究・SDGs・ダイバーシティ・経営基盤の構築、の 5 つの分野で報告内容を構成し、委員会では、鈴木学長から本学の取組みについて説明したのち、質疑応答を行い、活発な意見交換を行うことができました。

また、評価報告書では、本学の長所・特色、課題など多くの提言をいただき、改善・向上の取組みに向けた重要な視点を得ることができました。次頁より外部評価委員からの提言概要を紹介します。

不確実性の時代にあって、青少年の可能性を開き平和な未来を実現する教育としての「創価教育」を高く掲げ、その実践に取り組むことが、人間教育の世界的拠点としての役割を果たす本学の使命であることを再確認しました。これらの外部評価委員より頂いた評価結果を活用し、「Soka University Grand Design 2021-2030」に示した「価値創造を实践する『世界市民』を育む大学」を目指して、ますます教育・研究改革に取り組んでいく所存です。

最後になりましたが、ご多忙の中、本学の外部評価委員をお務めいただいた委員の皆様、改めて感謝申し上げます、あいさつとさせていただきます。

2023 年 4 月
創価大学 副学長
全学自己点検・評価委員会 委員長
西浦 昭雄

2. 外部評価委員からの提言概要

(1) 教育

①長所・特色とされた事項

○データサイエンス教育の全学必修化

- ・ 喫緊の社会的課題であるデータサイエンス教育をいち早く導入され、A I 教育を含めその内容拡充を図っており、全学必修化に関しては、文系学生といえども数理思考を持った学生が社会から求められているだけに、意義のある取り組みである。
- ・ データサイエンス教育の全学必修化を他大学に先駆けて導入するとともに、合わせて基礎学力の向上に取り組むなど、教育効果を高める事業に取り組んでいる。
- ・ コロナ禍の中で CETL を中心としたオンライン活用での教育体制、WEB 試験導入、全学データサイエンス教育導入などで地に足の着いた、しかもスピーディな教育改革で、成果をあげていると評価します。

○創立の理念に基づいた「世界市民教育科目群」の展開

- ・ 創立の理念に基づいた「世界市民教育科目群」の展開などは、創価大学ならではの独自の取り組みといえ評価できる。
- ・ 池田大作先生が、提案された地球的課題を「世界市民教育科目群」のサブカテゴリーとして「平和・人権・開発・環境科目」を含めて、学生第一の精神を貫きカリキュラムとしてスタートされたことは、高く評価されるべきものと思料。

○ティーチング・ポートフォリオの導入

- ・ ティーチング・ポートフォリオを導入し、2023 年度までに全教員への展開を目指していることは素晴らしい取り組みであるが、さらに一人一人の教員における授業現場の苦労を吸い上げるとともに、メンターとともに教員自身が振り返りを行うことで地に足の着いた教育改善を目的として掲げていることは高く評価できる。
- ・ ティーチング・ポートフォリオの活用やメンター教員の育成による、業務の効率化や負担軽減、課題の解決に繋げる仕組みについて、今後も従来の枠組みを超えた取り組みが求められることが想定され、非常に有益な取組みではないかと拝察します。

○認証評価における高い評価結果

- ・ 大学基準協会による第3期機関別認証評価で、「適合」であることのみならず、長所が6件ある一方で、改善課題は2件。それも是正勧告は0件であることは、す

なわち他大学比で相対的に相当高いレベルにあることの証左と思料される。

○探求型学習支援の取り組み

- ・ 志願者増加の取り組みとして探求型学習の支援にも取り組まれていることは評価できる。

②課題とされた事項

- ・ 高校段階で文系選択をした学生については、理系教科を十分に受けてこなかった者もいるはずであり、そうした学生に対して、どうデータサイエンス教育をしていくかについて、アドミッションポリシーも含めて、創価大学を志望する受験生に対して、明確な情報発信が必要であると考えます。
- ・ 大学による高校の探求型学習支援の取り組みは評価できることであるが、高校側から相談を持ち掛けようにも各大学で対応窓口が不明確なことが多い。是非、高校との折衝窓口となる機能がどの部署に置かれているかを明確化して対外的に発信して頂きたい。
- ・ SDGs 副専攻の今後の運用、定着を見守りたいと思います。その上でCAP 制については検証し、確認が必要かもしれません。
- ・ 今後は、社会人の学びなおしという観点から、DXやSDGs のニーズも増えてくることも予想され、例えばデータサイエンス教育の入門編を通信教育部にも導入するなど、時代のニーズに沿ったカリキュラムの拡充も今後ご検討頂ければと思います。

(2) 研究

①長所・特色とされた事項

○「プランクトン工学研究所」および「糖鎖生命システム融合研究所」による高い研究成果

- ・ 重点研究も推進され、特に、「プランクトン工学研究所」および「糖鎖生命システム融合研究所」での研究は、十分な成果をあげられており高く評価されるものと思料。
- ・ プランクトン工学研究所や糖鎖生命システム融合研究所の重点整備などは、国際学術論文の増加や外部資金獲得という点において、創価大学の研究の独自性を示す観点からも評価できよう。

- ・ 特にSATREPS-EARTHの研究活動は、現地のエチオピアだけでなく社会課題解決につながる循環型経済の成功事例として他国、また日本でも応用展開されるような発展を期待しております。例えば、将来的に学内ベンチャーとして起業し、金融機関などが主催する企業とのマッチングイベント等を通じて共同研究や技術供与を行うなどの制度や仕組みにつながれば、大学院・大学の評価向上にもより一層つながるのではないかと考えます。

②課題とされた事項

- ・ 研究における人的リソースともいえる大学院生の少なさは、研究大学を標ぼうする他大学と比較するまでもなく、大きな検討課題である。SDGs等にも注力し、国際機関との連携にも力を入れている大学だけに、自前でそうした人材を育てるという観点からも大学院教育の量的拡大は早急かつ着実に取り組むべきではなかろうかと考える。
- ・ 今後、社会人の学びなおし需要が増えることを考えると、社会人向け修士プログラムの制度面の充実化と研究成果による知名度向上を図ることも重要と考えます。少子化による高校生の受験数減少に対し、社会人の学びなおし需要を取り込むことも超高齢化社会の日本においては競争力に繋がるのではないかと思います。
- ・ 18歳人口の急減期を迎え、さらにはリカレント教育の重要性が叫ばれる中、社会人の取り込みも含めた大学院での教育・研究のあり方について、社会人が通いやすい駅前キャンパスの設置や、オンラインによる展開といった点も含め、早急に検討すべき課題であると考えます。
- ・ 課題認識されているコンプライアンス教育のリバイスが十分ではなかったことや、コロナ禍で已む得ない事情があるではあるが、本来創業者および創価教育に関する研究については、最優先すべき事項のひとつと考えられるが、その成果を英語圏の多くの方に伝えるべくなされていた翻訳作業の制限により当初計画よりも遅れる結果となったのは、やや残念な結果であったと思われまます。
- ・ バイアウト制については定着を見守りたいと思います。

(3) SDGs

①長所・特色とされた事項

○地域や社会と連携した取り組み

- ・ 八王子市を中心とした地域連携は、貴学の教員および学生がこのコロナ禍の閉塞

感を、一体となって打破する機運を育てるといった風土を生み、地域の活性化に大いに役に立つと同時に、学生第一主義である貴学の本分も達成された、素晴らしい企画と実践であったと評価したいと思います。

- ・ 高校生を対象とした SDGs プログラムについても実施準備をされていることは、評価に値するものと思っております。SDGs と金融リテラシー教育を融合させるなど、掛け算により多面的で深くかつ幅を広げたものにもできる可能性があること、工夫のひとつかと思料しておりますので、ご参考までにお伝え申し上げます。
- ・ UNHCR や UNDP、FAO などの国際機関との連携においても、高く評価されている。また、ESD においてもユネスコスクール担当教員養成カリキュラムを教職大学院に開設するなど、先進的な取り組みをされている。今後はさらなる内容の充実に向けた取り組みが期待される。

○キャンパスの SDGs 化・エネルギー計画策定の取り組み

- ・ 地元自治体の八王子市が「ゼロカーボンシティ宣言」をした中、「学校法人創価大学気候非常事態宣言」を公表し、方向性を明らかにしたことは価値ある取り組みである。
- ・ 昨年4月に「気候非常事態宣言」を表明され、エネルギー計画検討部会の継続的な開催、SDGs の各目標と関係の深い履修科目をシラバスで可視化されるなど、対外発表だけでなく推進体制や仕組みを整備され、学生の SDGs 認知も非常に高いという点が素晴らしいと思います。

②課題とされた事項

- ・ 大学コンソーシアム八王子主催の学生企画補助金に採択されるなど、学生による素晴らしい取り組みがある一方で、当事者であった学生が卒業してしまうと事業の継続性が保たれないことが考えられるので、次世代の学生へ継承できるような取り組みを検討頂きたい。
- ・ 全学 SDGs プロジェクトとして、「スタートアップ支援」や「サステナブル事業支援」などには、まだ工夫の余地を感じます。登録を呼びかけているにも関わらず、登録件数が伸びてこないということに対して、それは件数の外形的な伸びないという事実だけではなく、なぜ伸びないのか、といった根っこの部分を更に掘り下げていかれることを期待します。

- ・ SDGs プロジェクトの登録件数が伸び悩んでいるという課題については、学部やゼミ単位での活動になるのか、テーマによって学部横断的に学生が取り組める体制にあるかということも気になりました。いずれにしても指導教員をどうするかという課題があるかもしれませんが、SDGs 自体が網羅的に様々な課題が連関し合っている性質上、柔軟な体制づくりと、既に取り組んでおられる外部実務者とのネットワーク拡大も引き続き取り組んでいただければと思います。

(4) ダイバーシティ

①長所・特色とされた事項

○スーパーグローバル大学創成支援事業を通じた取り組みの推進

- ・ グローバル化の推進については、スーパーグローバル大学創成支援事業、中間評価にて、2 回連続の「S」評価を獲得されるなど実績をあげられると同時に、各種大学ランキングにおいて、国際化の指標で高い評価を得られていることは、まさしく質の高い活動の証左と思料いたします。
- ・ 今年度より「創価大学ダイバーシティ・インクルージョン推進センター」を設置され、教職員の職務環境改善等に取り組まれている点、SGUの一環として女性教職員比率を改善されている点、また英語による授業の拡充などで評価されている点などが、非常に素晴らしいと思います。

②課題とされた事項

- ・ 教職員の女性比率について、女性教員は目標を達成しているとのことであるが、近年は管理職における女性割合について着目されてきているので、その観点からも改善をご検討頂きたい。
- ・ 幹部職員や教学組織におけるリーダーにどれだけ女性を登用できるかというフェーズに移ってきているのではなかろうか。女性の職員や教員の比率を引き上げるだけでなく、クォータ制の導入なども視野に入れながら、女性幹部をどう登用すべきかについての議論を早急に深めるべきであると考えます。
- ・ 特に日本はジェンダーで先進国の中で後れをとっており、日本の文化的背景や社会構造が大いに関係する一方で、女性の自立したマインドを育成するという意味では、学生時代に受ける影響は大きいと思います。女性でも要職に就いて活躍する教職員がいる環境なのか、管理職は「やっぱり男性」という環境なのかによって、学生の意識にも潜在的に影響すると思います。一般的に企業の採用面接官から、「女子学生の方が男子学生より圧倒的に優秀」という話をよく聞くのですが、

その後の社会で女性自らが自分に制限をかけてしまうことも多いように感じています。創価大学には、性別や国籍などの属性の多様化と能力の多様化の両面から、今後も先進的な取組みをして頂けるよう期待しております。

(5) 経営基盤の構築

①長所・特色とされた事項

○コロナ禍における経常収支の改善

- ・ 経常収支の改善は素晴らしいです。建物のライフサイクルコストに基づくメインテナンス計画を検討して行ってください。
- ・ コロナ禍において、非常に難しい経営の舵取りを求められている中で、中期財政計画を全うされていることは、大変高く評価されるべきものと思料します。
- ・ 学生数の確保は学校法人にとって、経営に直結する非常重要的な課題の一つですが、少子高齢・新型コロナウイルスといった大学を取り巻く環境の変化に対応すべく、努力されていると感じます。

○ブランド力向上の取り組み

- ・ 大学のブランド力という点では、教育・研究活動の成果や司法試験合格者数の積み重ね、駅伝部、野球部などのスポーツでの活躍により、大きく向上していると思われる。

②課題とされた事項

- ・ キャンパスの整備においては、今後文系 A 棟や寮に代表される老朽化対応だけでなく、そもそも DX 化を活用した教育改革とあわせての「キャンパスのあるべき姿」については、更なる検討は必要と思料されます。将来計画も見据えた改組計画、それにあわせたキャンパス規模の検討など、検討すべき事項は多く、それがすなわち、財政へ直接的に影響を与えてくるだけに、高度で難易度も高い問題を包含していますので、是非、重要課題のひとつとして、「キャンパスの今後のあるべき姿」を全学の課題として、ディスカッションされることをお勧め致します。
- ・ 2050年カーボンニュートラルを目指す上で、大学の財務および施設整備に関する計画が表裏一体となってくるが、学生の意見も踏まえた学生参加型で計画立案することも一つの考え方として挙げられると思われる。
- ・ 少子高齢化による志願者数の減少に対しては、既に取り組んでおられる活動以外にも社会人の学びなおし需要の取り込みなども、中長期的に必要な観点ではない

かと思います。また、既に取り組みられているかと存じますが、思想の柱として「創価」を堅持しつつ、上智大学やICUのように宗教に関係なく幅広い人材の集まる大学として、裾野を広げるための取組みもこれから益々必要ではないかと考えます。

- ・ 財務基盤の強化としては、卒業生はこれからも増え続けるため、卒業生からの寄付金戦略も重要だと思います。近年はコロナの影響もあり、卒業生が直接大学に還る機会も少なくなっていると思いますが、オンラインなども活用し卒業生同士の繋がり強化や、在学生や今の大学の取組みに触れる機会を持つことで、母校への貢献意識は大きく変わると思います。

今回の50周年記念の寄付事業のように、目的や用途を明確に伝えていくことで参加意欲も喚起でき、社会人として学びなおしを考えている卒業生にとっては、通信教育や大学院への進学などに繋がる可能性もあると思います。

- ・ 有価証券として相当額の資産運用をされていると思いますが、SDGsに積極的に取り組む大学としてPRI（責任投資原則）への署名は検討されないのでしょうか？国内大学では東京大学や上智大学など事例が少ないと思いますが、海外では40以上の大学が署名をしており、資本市場にも影響を与えていると思います。またPRIに署名し年次評価を受けることで、透明性と社会貢献への信頼が担保されるのではないかと思いますので、中長期的に検討して頂けると幸いです。

3. 外部評価委員からの講評

- ・ 全体としてはうまくいっていると評価します。とりわけ毎年自己点検—外部評価という内部質保証システムの開始は他学のモデルとなるものだと思います。

- ・ 総合的な評価としましては、大変高く評価しております。中長期計画である「Soka University Grand Design 2021-2030」および学長ヴィジョンであげた取組を、しっかりと実践され、かつ振り返り、課題認識をもって改善していくひとつのPDCAサイクルができあがっていることも、高く評価させて頂きたいと思います。

貴学は、創立以来の「学生第一」「学生のための大学」を標榜されていますが、全学協議会などをはじめとして、まさに、それを体現されてきており、加えて、一人も漏れることなく持てる力を最大限に発揮されるよう運営されていることは、まさにSDGsの根本の精神をもとよりお持ちであること、まさに賞賛に値する活動を多く有しておられるものと思料しております。

- ・ 全体として、教職が一丸となって取り組まれていることがよく理解できた。とはいえ、コロナ禍における志願者の減少やダイバーシティに関する取組み、大学

創立から半世紀を迎えての施設の老朽化等、いくつか課題があることも明らかだ。それらをどう解決していくのか、今後の取り組みに期待したい。

- ・ 今、教育は時代の大きな変化の中にあると思われる。その中でも変わらないものはある。どの大学でも地域の貢献は掲げているが大学の繁栄は地域の発展と表裏一体。地元自治体とも協力しながら、頑張っていたきたい。
- ・ SDGs 目標達成に取り組むことは、社会に貢献すべく取り組むことと同意義であると解釈いたしますが、地域に貢献する連携活動は学生にとって貴重な体験となるとともに、大学が存在する地域の発展にもつながるものですので、今後も積極的に取り組んでいただけますよう、お願いいたします。
- ・ 少子高齢化、ウィルス感染対策、DX、気候変動、脱炭素社会への移行など、次々と大きな変化や課題が押し寄せる中、創価大学がグランドデザインの下、様々な制度や教育環境などを整えられ、時代の要請にもいち早く対応し重点4分野で様々な成果をあげられており、大学教職員の献身的なご苦勞があつてのことと 拝察し、大変感銘を受けました。

最近では株主資本市場からステークホルダー資本市場への移行が進み、企業は収益の追求だけでなくパーパス経営が求められるようになりました。価値観の変容とよく言われますが、これからは従来の知識が役に立たないということではなく、それらを何のためにどう使うかという目的観と使い方が変化していると感じています。まさに創価大学の「英知を磨くは何のため 君よ それを忘るるな」との指針を追求し続けると同時に、変化への適応力が求められる時代だと思えます。

創立者が開学 50 周年に示された「継承すべき本学の宝」の3項目を柱としながら、学生には卒業後の長い人生の中で負けない原点を在学時代に築いて頂きたいと思えます